鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語(5年)

科目基礎情報

科目番号	0249	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉　コミュニカティブ版		
担当教員	佐藤 伸浩,LUKAS RIESER		

到達目標

４年生で網羅出来なかった初級文法のうち、比較表現、再帰動詞、再帰代名詞、受動態、接続法などの理解を深める。初級文法が終わったら、自ら辞書を引き、初歩の文字テキストの読解にチャレンジできることを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文法の知識に基づいて辞書を引き、適切な意味を見つける事ができる。	辞書は引くが、見出し語となるはずの語形を正しく導けず、語彙が発見できない。	辞書を引く意欲がない。
評価項目2	下調べの段階で歯ごたえのある文章としっかり格闘する熱意があり、予習で解決出来なかったことを授業での学習体験を、自力解決の体験とほぼ同じ質にまで高められる。	一応辞書は引くが、辞書上の意味でストップし、テキストでの意味ないように踏み込むところまで進めない。	テキストとの格闘に意義を見出せない。
評価項目3	耳で聞く努力が出来、文字テキストに食らいついていこうとする意欲がある。	文字テキストにあまり意義を感じない。	文章への関心がほとんどゼロに近い。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	初級文法の残りを仕上げる。平易な文字テキストを講読する。
授業の進め方・方法	文法説明、語彙説明をもとに文例の音読、和訳、さらに練習問題と進める。授業の最後に毎回、文法についての暗唱試験、初級文法が終わった後は授業で扱うテキストから、ある程度まとまった文の暗唱試験を実施する。
注意点	・前期開講のクラスと後期開講のクラスがあるが、毎回の授業内容については前期のみ記す。後期開講のクラスも前期開講のクラスに準ずる。 ・学修単位の授業なので、初級文法終了後はテキストの下調べをした上で授業に臨む事を求める。 ・口頭での暗唱試験は１回２点満点とし、滞り無く言えれば２点、滞ったり、教員のヒント、手助けがあって出来た場合１点、ヒントがあっても出来なかった場合は０点。なお、口頭試験の結果に納得出来ない場合は何度でもやり直しを認める。 ・期末試験2回分に 50%、暗唱試験に 20%、レポートに 10%、授業での 担当箇所の発表の評価に 20% を配分して最終評価とし、60% 以上を合格とする。 参考書：中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著：改訂版 必携ドイツ文法総まとめ．白水社

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	完了時制の復習	現在完了の用法が英語と異なる面があることを理解し、現在分詞、過去分詞の使い方等を確認する。
		2週	形容詞、副詞の比較変化	原級、比較級の表現に習熟する。
		3週	形容詞、副詞の比較変化	最上級表現に習熟する。
		4週	再帰表現	再帰代名詞の格変化を覚える。再帰動詞の使い方が分かるようになる。
		5週	受動態	受け身の助動詞としてのwerdenを理解し、動作主をぶら下げる前置詞vonとdurchを覚える。状態受動の助動詞seinを覚え、また不定代名詞manを主語とする能動文がなぜ準受動表現として使われるのかを理解出来るようになる。
		6週	接続法の作り方	法が定形動詞を分類するカテゴリーであり、直説法、命令法、接続法の３種類あることを理解し、例えば過去形は定形動詞であることを知る。４年生で覚えたmöchteの人称変化をもとに、接続法I式、II式の作り方を理解出来るようになる。
		7週	接続法の用法整理	要求話法、間接引用、非現実話法の実際を観察し、英語の仮定法の復習を兼ねる。
		8週	まとめと中間試験	初級文法のおさらいをし、習熟度の確認をする。
	2ndQ	9週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		10週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		11週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		12週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		13週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。

		14週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		15週	まとめと期末試験	テキストのおさらいをし、習熟度の確認をする。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0